

2 各分科会の検討状況

(1) 市民生活分科会

【分科会として扱う主なテーマ】

コミュニティー、男女共同参画、人権、防犯、保健、医療、福祉、社会保障

分科会の進め方について

当分科会に与えられているテーマは日常生活に密接し、また広範囲にわたる内容であり、それぞれのテーマは重複する部分が数多くあるが、まずはそれぞれのテーマごとに総論的な議論を行うことにした。その後、「コミュニティー」「男女共同参画」「人権・防犯」「保健・医療」「福祉・社会保障」と五つに分けて、それぞれの委員が得意とする分野を担当しまとめ上げることに決定した。

ただし、一つのテーマについて全委員で議論を行い、意見を集約している。総論は5つになるが、平成16年12月の最終提言までには絞り込む予定にしている。

市民参加・高齢化・少子化・情報化・行財政運営・地方分権については、上記の各テーマの中の共通キーワードなので、今回は、あえてこれらを独立して取り上げなかった。しかし、さらに最終報告に向けて検討していく必要性はある。

現在議論している主な内容

「コミュニティー」

すべての住民が微笑みを持って暮せるまち、かわごえを作るために

- ・川越市役所情報センターの設置
- ・各支会に「ふれあいセンター」の設置
- ・各小学校の空き教室(空きスペース)の活用
- ・自主防犯・防災組織の結成
- ・高齢者のこころと身体健康の推進
- ・自治会・各団体などの組織の見直し
- ・地域消費者教育指導員養成制度

「男女共同参画」

女性の社会進出、子育て、介護問題、福祉などが密接に関連している。

- ・次世代育成支援対策の推進
- ・女性のチャレンジを支援
- ・男女共同参画の視点にたった教育・啓蒙活動
- ・女性の政策決定の場への積極的登用

「人権・防犯」

人権意識に満ちた人に優しい思いやりのあるまち

毎日が犯罪のない明るく安心して誇りを持って生活できるまち

- ・人権意識高揚のための意識啓発・人権教育の効果的推進
- ・人権関係の各種条例等の整備
- ・総合的な相談体制の整備
- ・防犯意識の高揚と自主的防犯パトロールの強化

「青少年健全育成」

- ・銃砲・刀剣類及び麻薬・覚醒剤関係情報把握と警察との連携強化

「保健・医療」

健康で生き生きと生活できるまち

- ・各種健康診査、予防接種及び健康相談の徹底とPR活動の充実
- ・市と関係諸機関(医師会・歯科医師会・薬剤師会・看護師会・歯科衛生士会等の医療従事者や自治会・保険相談員等)との更なる連携

「福祉・社会保障」

障害児者が地域の中で安心して暮せるまち

- ・「団塊の世代」を地域市民として再教育する市民革命
- ・親の意識改革と楽しい育成会活動
- ・障害者の自立と人権擁護
- ・生涯学習センターの設置
- ・地域福祉推進のための地域教育革命の遂行
- ・地域福祉推進のためのエコマネーの導入

今後の予定

中間報告は途中経過であり、さらに議論を重ね集約しながら最終提言までに分科会としての意見をまとめる予定である。

そのなかで他の分科会と重複する分野については分科会間で調整をし、意見交換を図っていきたい。

与えられたテーマに対してすべてを網羅しているとは思わないが、各委員から出された意見を尊重し第三次川越市総合計画に反映できる提言をしていきたいと思っている。

(2) 都市基盤分科会

【分科会として扱う主なテーマ】

土地利用、都市整備、交通、上下水道、道路、河川

分科会の進め方について

都市基盤分科会は都市の骨格となる基盤を整備するものであり、扱うテーマも多義にわたる。テーマ相互の関連性、個々に生じる問題や優先順位、取捨選択等を検討するためには判断基準となる総合的な将来像を持たなければならない。

細分化されたテーマ別の各論から検討に入った場合、最終的にそれらを適切なバランスで統合することが難しく、收拾のつきにくい事態や妥協が生じる危険性がある。

都市基盤分科会としては、まず、各委員が時代の変化とその方向性を見極め、川越市の将来像を含む総論とテーマ毎の意見をメモカードとして整理分類することから始めた。その資料をもとに、総合的な都市イメージを描きながら、広範なテーマを全員で検討した。この方法は8ヶ月という短期間ではかなりな困難も予想されるが、川越市の将来あるべき姿について一定のイメージを共有することと全体のバランスを保つことが重要であるとの認識にたつての決定である。

現在まで12回の会議を開催し、各委員が思い描く将来像やそれに基づく各論への筋道までを含め全員による討議を重ねてきた。予想通り、28名という大所帯での議論は効率が悪く、時に堂々めぐりに陥る危険を孕むが、委員相互が経験・知識、日ごろの問題意識をもとに、まちに対する根本的な認識や将来像について真剣に討議することを通し具体的なイメージがかたまりつつある。

現在議論している主な内容

現時点では委員それぞれが、常に理想とする将来都市像を描きながら、全体としての都市像に照らした都市基盤としての総論について活発な討議を行っている。

歴史的経緯や文化遺産が示す川越という都市の骨格とは何か、遺産が現代に及ぼす問題とは何か、都市基盤の根幹である災害・犯罪・環境汚染等が引き起こす危険性などに対する「安全」の基盤づくり、少子高齢化からくる労働人口の問題、産業再編のための基盤整備、さらには市全域における平等・公正なインフラ整備（ユニバーサルデザインの採用、バリアフリー化を含む）とその促進、道路・交通施設とそれに伴う情報管理の問題、情報化に伴うセキュリティの問題、成熟の時代における都市規模の問題、持続可能な資源・エネルギー循環型社会の構築に向けたハード・ソフト両

面からの基盤整備のあり方、現時点での川越市のポテンシャル(潜在力)等について、相互の関連性も含めて、一定の認識を共有するため、キーワードとしてのまとめも含めたかたちで議論が進められている段階にある。

各論についてもメモカードをもとに提示されているが、現段階では十分な検討にまではいたっていない。中間報告では総論シートの代表的なものを報告するにとどめ、総論・各論とも最終提言に向けて、さらに十分な分析・検討を行ってゆきたい。

今後の予定

今まで検討を重ねてきた「目指すべき将来都市像」をさらに充実させながら、川越のポテンシャルを顕在化させ、地域格差の生じないあるいは解消できる方向で、安全・快適で、自然・環境との共生を図りつつ、少子高齢化に対応した労働力・産業の再編、ユニバーサルデザインの普及による誰もが安らげるまちとしての都市基盤の整備についてわかりやすいかたちで提言をまとめて行きたい。

同時に、周辺都市との連携も含め資源・エネルギー循環型社会の基盤づくりを、市民と行政が情報・知識を共有し、協働できるかたちで進めていけるハード・ソフト両面からの知恵(施策)なども提示したい。

今後、具体的提言をまとめる方法として、テーマの関連性を重視しながら10項目にわたる各論を4グループ程度に分けて、グループ相互の連携を図りながら詳細な分析・検討を行い、実現可能な提言としてまとめてゆく予定である。

資料

【メモカード】 検討項目一つに丸印をつけ構想・理念等はその旨表示し、一項目ごとに提案を簡明に記入する。

かわごえ市民会議 / 都市基盤分科会	メモカード	04 . .	氏名 :
0.総論 各論 1.総合的土地利用 2.計画的なまちづくり 3.景観に配慮したまちづくり 4.道路・交通施設の整備 5.まちづくりにおける農地保全 6.河川環境・上下水道の整備 7.公園・緑地の整備と保全 8.情報機能の整備 9.その他(防災等)			
キーワード			

【メモカード集計結果】

総論	38項目
各論 1.総合的土地利用	13項目
2.計画的なまちづくり	4項目
3.景観に配慮したまちづくり	7項目
4.道路・交通施設の整備	32項目
5.まちづくりにおける農地の保全	3項目
6.河川環境・上下水道の整備	4項目
7.公園・緑地の整備と保全	12項目
8.情報機能の整備	4項目
9.その他(防災等)	25項目
総計	142項目

(3) 経済・産業分科会

【分科会として扱う主なテーマ】

商業、工業、農業、観光、労働

分科会の進め方について

川越市が、住民の生活を守り、一層、地方自治の精神を発揚し、豊かさ、安定、安心、潤いのある地域社会を建設していくためには、都市機能の中軸である産業を振興しなければならない。

産業振興に当たっては川越市の持続的な発展を可能にする創造力、活力を生み出すことに重点を置き、内外の経済環境の変化、人口構造の変化、人々の価値観の変化などを踏まえる。同時に自然環境に配慮しなければならない。

以上のような考えに立って良策を生み出すべく討論を進めた。

討論の進め方は、項目ごとに各委員が意見をまとめ、文書化して持参することを原則とし、討論 - 集約、討論 - 集約、総括のプロセスを経る形をとった。一項目につき2～3回討論 - 集約を繰り返し、内容を深め、よりよい結論を導き出すことを努めた。分科会は中間報告まで16回開催した。

現在議論している主な内容

4項目についての討論は一巡した。さらに提案を加えるとともに、川越市にとって提案が必然的なものであるかどうか、実現の可能性などについて検討している。

今後の予定

最終提言に向けて、短期、中期、長期等の視点に立ってさらに検討を加え、川越市の将来展望を開ける施策たるような内容にまとめ上げることとしたい。

共通キーワードは大変重要なので、この討論にも力を入れ、良い結論を得られるよう努力する。

(4) 環境・防災分科会

【分科会として扱う主なテーマ】

地球環境、環境の保全と創造、循環型社会、防災、消防、救急

分科会の進め方について

環境・防災分科会は、個人バズセッションとでもいうべき討議方式で、先ず委員個人の施策（知恵、アイデア）の提案を受け、取り扱うテーマを中心として分科会会議で集約するやり方で討議を進めている。

会議は、市民会議運営マニュアルの外に、定例会議日程等を組んだ簡単な運営要領を定め、リーダー、サブリーダー及び書記が役割分担して運営している。

現在議論している主な内容

個人提案に当っては、現状認識を条件としたが、委員個々のそれぞれの分野に対する意識や認識の差もあり、斬新な提案の他に、質問形式や苦言、要望に類するものも比較的多かった。環境分野では、地球温暖化防止策への取り組み、ごみの減量化策と適正処理等に提案が集中している。また、自然の少ない川越を反映して、公園緑地、緑化に関する提案も多い。一方、防災分野では、最近の風水害に見られる災害弱者への対応策等がある。これらの施策を協働で推進、持続するための拠点、情報センターや防災センター、環境学習センター等の設立・整備が提案されている。

中間報告の段階では、これらの中から比較的現状把握と本質追及ができて、委員の概ね総意を得た施策のみをテーマ別に分類して、総論、各論形式で報告することとした。

なお、各論提言の事業実施時期については、最終報告で記入することとしている。

「中間報告における将来かわごえ像」

- 1 人と地球にやさしいまち
- 2 持続可能な循環型社会を目指すまち
- 3 水とみどりの豊かなまち
- 4 環境の保全と創造に取り組むまち
- 5 安心、安全な交通環境の充実したまち
- 6 市民・行政の協働で築く災害に強いまち
- 7 消防、救急対策が充実したまち

今後の予定

今後の分科会会議は、月2回の定例会を継続し、最終報告に向けてこの中間報告分も含めて、委員から提案された事業についてテーマ毎に集中議論を重ね、精査し提言していくこととする。

(5)文化・教育分科会

【分科会として扱う主なテーマ】

生涯学習、学校教育、市民文化、国際交流、スポーツ

分科会の進め方について

文化・教育分科会は8月24日までに6回の会議を開催しているが、運営方法として特徴的なのが、分科会を「文化」、「学校教育」及び「生涯学習」のグループに細分化している点である。

これは、分科会として広範囲にわたるテーマを大勢で議論することは効率的ではないということから、それぞれのグループごとに意見を取りまとめた後、文化・教育分科会全体として意見を集約していく手法を採用したためである。

グループごとの活動としては、「文化グループ」が6回の会議を、「学校教育グループ」が10回の会議を、「生涯学習グループ」が7回の会議をそれぞれ開催している。

現在議論している主な内容

3つのグループとも、グループテーマとなっている「文化」、「学校教育」及び「生涯学習」について委員間で自由な意見交換を行った後、課題を抽出して今後実施していくべき事業等について議論を行った。

「文化グループ」では、市民、企業、行政が連携し、市民が自ら考え主体的に行動して文化活動や国際交流を実践できるまちづくりの実現に向けて議論を進めている。

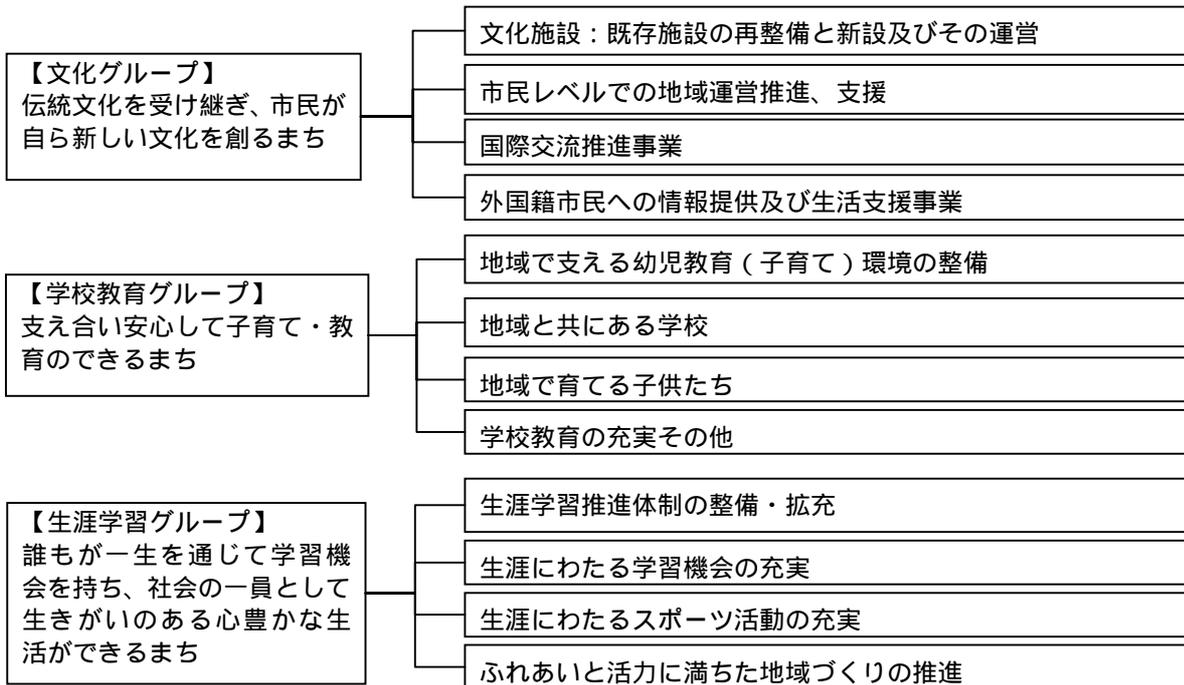
「学校教育グループ」では、幼児・小学校低学年児の子育てが人間形成において重要であるという認識のもと、地域の住民がともに支え合い、安心して子育て・教育が行える環境の整備に向けて議論を進めている。

「生涯学習グループ」では、高齢者の生きがいづくりに偏重している現在の生涯学習から、一生涯を通じた生きがいを形成するためにも子供の頃から趣味や文化を学べるような生涯学習のあり方について議論を進めている。

このような議論を踏まえて、グループごとに「将来かわごえ像」と「将来かわごえ像を実現するための知恵(施策)」を次のように取りまとめ、「将来かわごえ像」を導き出した理由と「かわごえの現状」についてグループ内で整理を行っている。

将来かわごえ像

将来かわごえ像を実現するための知恵（施策）



今後の予定

3つのグループで検討した結果を分科会として集約して総論提言シートをまとめていくとともに、「将来かわごえ像を実現するための知恵（施策）」の内容について詳細かつ具体的に検討し、各論提言シートにまとめていく予定である。